

平尾邸の概要

資料



竣工当時の平尾邸 大正 6 年（1917 年）



現在の平尾邸 令和 6 年 3 月撮影

平尾邸の概要

平尾邸は、大正6年に竣工した2階建ての洋風建築で、別府銀行頭取の平尾謙平によりゲストハウスとして建設され、最近までは平尾家の自宅として使用されてきた。

約570坪の敷地内には洋館の他に、漆喰壁の和風建物(以後和館と記する)が建てられている。

所在

別府市浜脇2丁目8-7

敷地面積 約1,900㎡(約570坪)

建物の保存状態について

雨漏りの跡や、部材の痛み等が生じているところはあるが、近年まで居住されていたため、概ね保存状態は良好である。

今回、ご家族から行ったヒアリングでは2016年の熊本地震においても損傷は受けていないとの事であった。

ただし、増築や改修等が繰り返して行われており、その経緯等の整理が必要である。

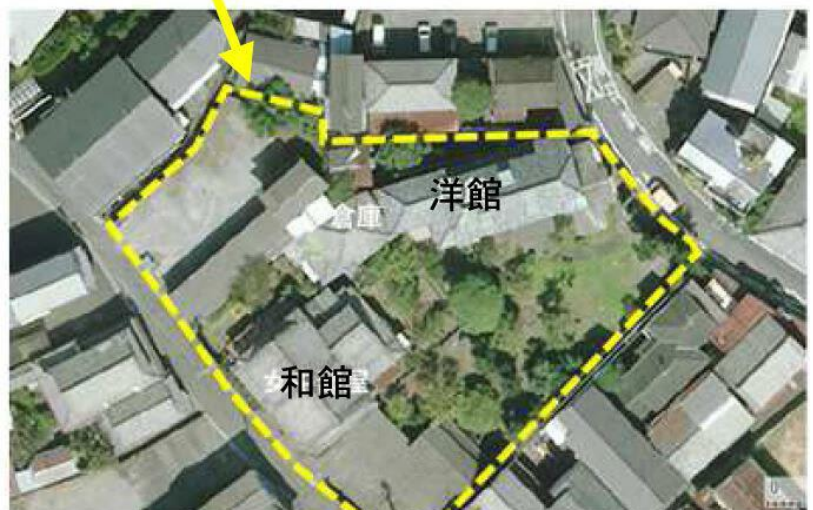
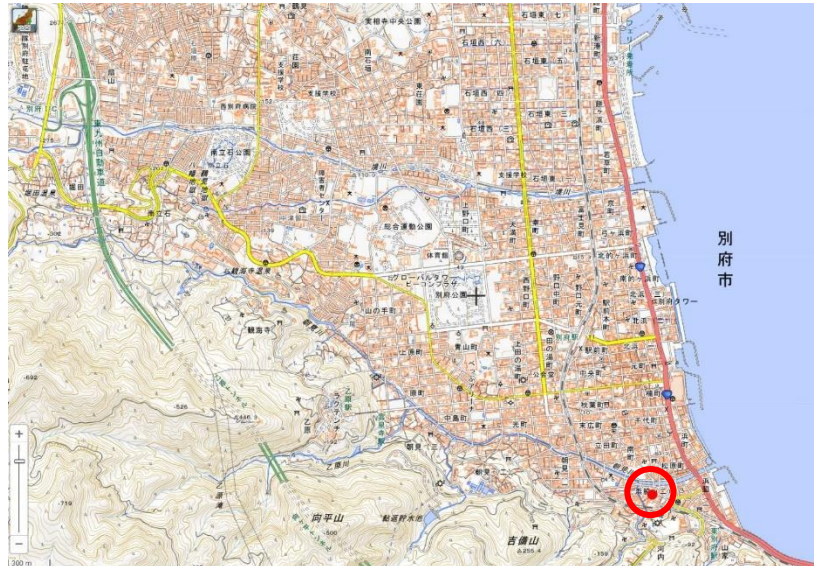
耐震補強について

現状において倒壊などの危険性は低いと考えられるが、

- ① 一般公開などを前提とする場合は、一般住宅のケースを上回る高い耐震性の確保
- ② 当該建物の優れた外観を損なわない文化財的価値を損なわない範囲での改修方法
- ③ 利活用のための使用を妨げない補強方法

以上の3点に留意した改修方法が最低限の条件となろう。

(付属建物として鉄骨造車庫3棟と木造倉庫3棟があるが、これらについては特筆すべきところはないと考える)



建物の歴史的価値

温泉観光都市別府の発展と平尾謙平

別府が温泉観光都市として飛躍的な発展を遂げたのは大正～昭和初期の頃である。それは「別府観光の父」とも呼ばれる油屋熊八(1963-1935)が稀代のアイデアマンとして活躍した時代でもある。そしてちょうど同じ時期に家業の銀行業を通じて別府の発展に寄与した人物が平尾謙平である。

平尾謙平の人物像

平尾謙平は明治 8 年(1875)3 月 9 日大分郡日岡村の豪農宮崎得一氏の二男として生まれ、幼少の頃、醸造業で財を成し浜脇貯蓄銀行を創業した平尾小十郎の養子となった。大正元年(1912)に平尾銀行を創立、のちにこの 2 行を合併した別府銀行の頭取となる。(別府銀行は後に大分銀行と合併される)

昭和 10 年発行の「大別府人物史」によれば、『泉都發展の大功労者として知らる…（中略）…事業界にあっては機敏なる劃策と細心且大膽なる斷行力を以て臨み、其の行く所、爲す所一として成らざるないと言ふ稀有の手腕家である』とある。

また、市政実施以前に 3 期 12 年にわたり別府町会議員を務めている。



別府興業合資会社

今回の調査で平尾邸の大型金庫より大正7年設立の「別府興業合資会社」の定款が見つかった。当時の別府の政財界の中心人物が設立に参加していることが判った。(会社についての詳細は不明)

高橋欣哉

別府市第2代議長。のち衆議院議員。別府の名建築として名高い「聴潮閣」を建てた。

山田耕平

別府市初代議長。のち県会議員
別府の観光の発展に尽くした。
一時平尾銀行取締役

油屋熊八

「別府観光の父」。 亀の井ホテル、亀の井交通創業者

平尾謙平

別府銀行頭取。「平尾邸」を建設しゲストハウスとして活用した。

佐藤通

画家佐藤敬の父。亀の井旅館創業時に油屋熊八に建物を提供するなどして支援した。

このような別府観光発展の中心人物との交わりは、平尾邸がゲストハウスとして建設された目的を如実に示すものであると考えられる。

收入印紙
參 照

定 款

第一條 當會社ノ商號ハ別府興業會資會社ト稱ス
第二條 當會社ハ左ノ事項ヲ以テ營業ノ目的トス

一 不動産ノ賣買及其仲介

二 金銀ノ貸借及其仲介

三 有價証券ノ賣買

四 株式評價及債券ノ募集應募並ニ其拂込代辦

第三條 當會社ハ大分縣速見郡別府町大字別所貳千六百拾五番地ニ設置ス

第四條 當會社ノ資本金ハ五萬圓ニシテ各社員ノ出資額並責任住所氏名左ノ如シ

速見郡別府町大字濱脇百七拾四番地

出 資 金 壹 萬 圓

全郡全町大字別所貳千九拾九番地 有 限 責 任 高 橋 欽 哉

出 資 金 壹 萬 圓

全郡全町大字上野貳百貳拾參番地 有 限 責 任 山 田 耕 平

出 資 額 金 壹 萬 圓

全郡全町大字濱脇二千八百拾參番地 有 限 責 任 油 屋 熊 八

出 資 額 金 壹 萬 圓

大分市大字上野貳百貳拾參番地 無 限 責 任 平 尾 謙 通

出 資 額 金 壹 萬 圓

無 限 責 任 佐 藤 藤 通

第五條 當會社ノ存立時期ハ會社設立登記ノ日ヨリ向フ滿拾箇年トス

第六條 當會社ノ無限責任社員ハ業務担当社員トシ會社ノ代表ス

第七條 毎五月ト拾壹月ノ各末ニ決算ヲ爲シ翌六月ト十二月ノ兩度通常總會ヲ開會スルモノトス

第八條 本定款ニ規定セキモノハ總テ商法ノ規定ニ準據ス

第九條 各社員ハ本定款ヲ承認シ左ニ署名捺印ス

大正七年拾月九日

高 山 油 平 佐
橋 田 屋 尾
欽 耕 熊 謙
哉 平 八 平 哉
通

時代背景

年表 （赤字は平尾謙平、青字は油屋熊八、緑字は「別府興業合資会社」関連を示す）

- 大正元年(1912) 平尾銀行創立、この頃より平尾謙平別府町会議員(3期12年)
- 大正 2年(1913) 竹瓦温泉改築 油屋熊八、それまで妻が営んでいた亀の井旅館を引き継ぐ
- 大正 3年(1914) 松原公園竣工
- 大正 4年(1915) 北浜旅館街の埋め立て始まる
- 大正 5年(1916) この頃、別府の旅館の新設が年間100件ペースを超える
油屋熊八、大阪商船に掛け合い、汽船が接岸出来る専用棧橋を実現させる
- 大正 6年(1917) 地獄めぐり始まる 流川通の拡幅工事完了 平尾邸竣工
- 大正 7年(1918) 浜脇銀行と平尾銀行合併、別府銀行となる 別府興業合資会社設立
- 大正 9年(1920) 別府港に鉄筋コンクリート製棧橋誕生
- 大正10年(1921) 別府銀行、他5行と共に大分銀行と合併
- 大正11年(1922) 別大電車運行開始
- 大正12年(1923) 日豊本線全線開通
- 大正13年(1924) 市制施行、別府市となる。初代議長に山田耕平 熊八、亀の井ホテル開業
- 大正14年(1925) 油屋熊八、富士山に「山は富士、海は瀬戸内、湯は別府」の標柱建つ
- 昭和元年(1926) 九州の宝塚と呼ばれた鶴見園開園 別府市2代議長に高橋欽哉
- 昭和 2年(1927) 「日本新八景」温泉の部で別府が日本一に選ばれる
- 昭和 3年(1928) 油屋熊八、亀の井自動車創業、日本初の女性バスガイドによる定期観光バスの運行開始

上記のように平尾邸が建てられ、ゲストハウスとして使用された時期は、別府が温泉観光都市として大きな発展を遂げた時期と同時期であった。

別府の近代化遺産の竣工年代と現状

- 大正 6年(1917) 赤銅御殿（1979年解体） 朝見浄水場(現存) 平尾邸（現存）
- 大正 9年(1920) 中山別荘（2007年解体）
- 大正 11年(1922) 旧野口病院管理棟(2013より使用休止)
- 大正 13年(1924) 京大地球物理学研究所（現存） 駅前高等温泉（現存）
- 昭和 2年(1929) 旧麻生別荘(2006年解体)
- 昭和 3年(1930) 別府市公会堂(現存。改修工事完了)
- 昭和 4年(1929) 聴潮閣（2016年より公開休止） 松下金物店(2021年解体)
- 昭和 13年(1938) 竹瓦温泉（現存）

赤銅御殿、中山別荘、旧麻生別荘、松下金物店はすでに解体され、旧野口病院管理棟、聴潮閣は使用を停止している。

建物の概要

洋館

浜脇から別府駅に通じる旧道（市道）沿いにハーフティンバーの装飾木枠と土壁、格子窓のファサードが高塀超しにひと際目を引く木造2階建、半切妻造、棧瓦葺の洋館は、当時平尾銀行取締役の平尾謙平氏が大正4（1915）年から2年がかりで当時の大金をかけて平尾銀行の迎賓館として建設した。棟梁は大阪から呼んだと伝えられている。竣工当時は、木造三階建の旅館や貸席の多かった浜脇地区なので、実にモダンな印象を地域の人々に与えていたという。

1階が洋室、2階が和室で構成されている。各洋室で違った装飾で彩られた漆喰レリーフにはシャンデリアが施されており、精巧な左官仕事で仕上げられている。

2階は和室となっており、廊下を兼ねた縁側に沿って大広間が配置されている。そこはかつて宴会場として使われていたらしく、縁側からの景色は開放感があり、庭園全体を眺めることができる。



和館

和館は木造2階建て、屋根は葺甲付きの入母屋となっており、棧瓦葺きである。

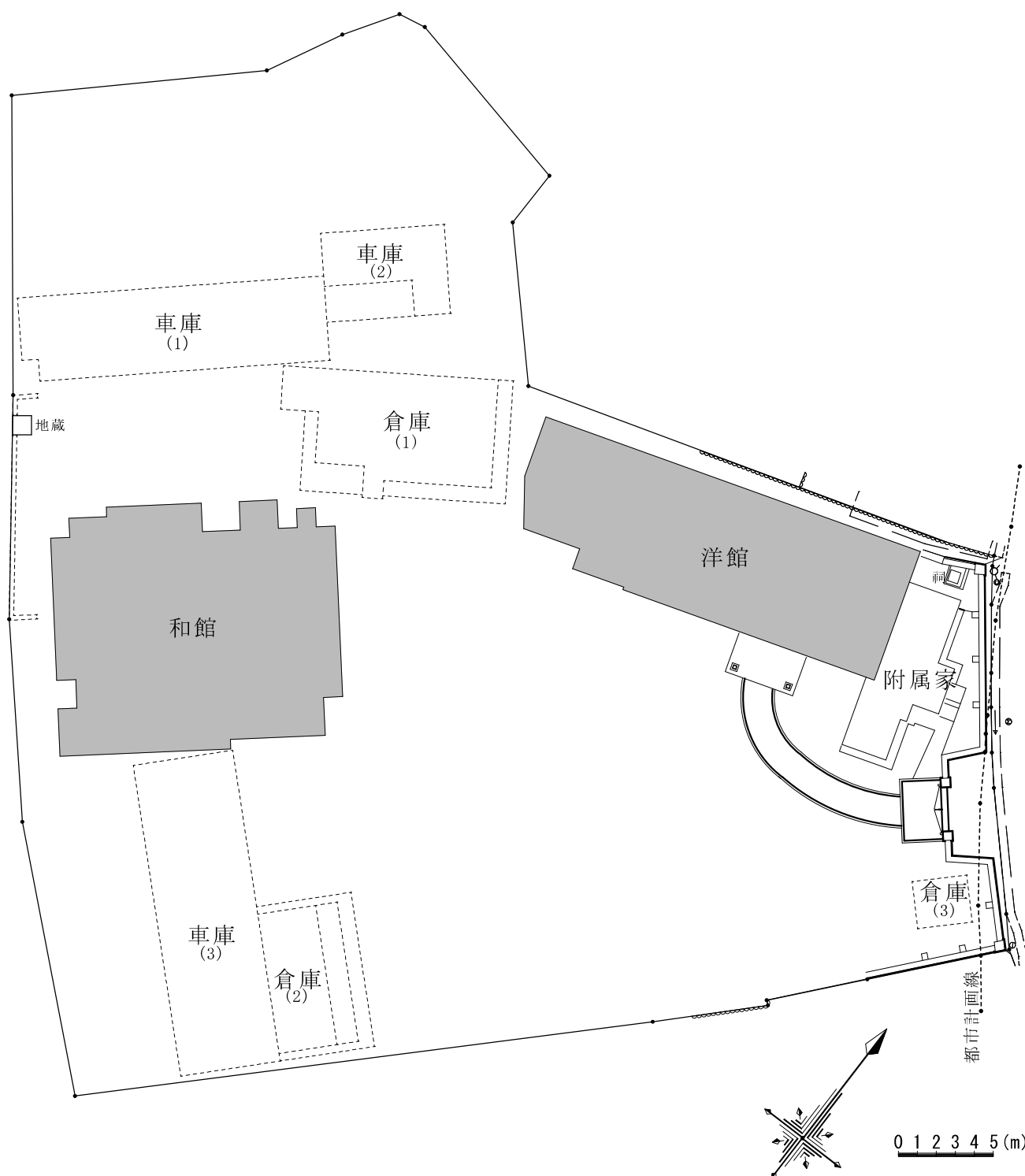
この建物の建築年代は不明ではあるが、洋館（大正6年築）よりは時代がさかのぼると考えられる。

近年の部分的改修ヶ所や、増築部分も多少あるが、それらを除けばほぼ建築当初の建物形状が残されていることが推測できる。

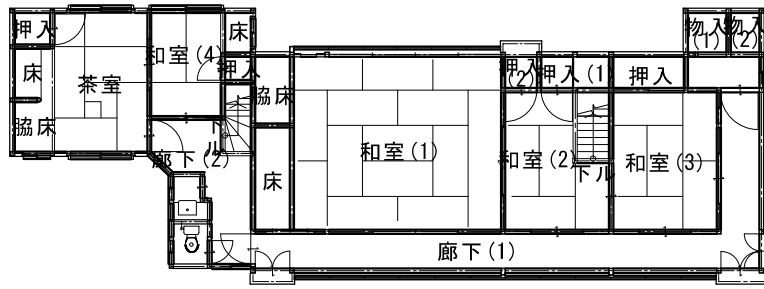


配置図

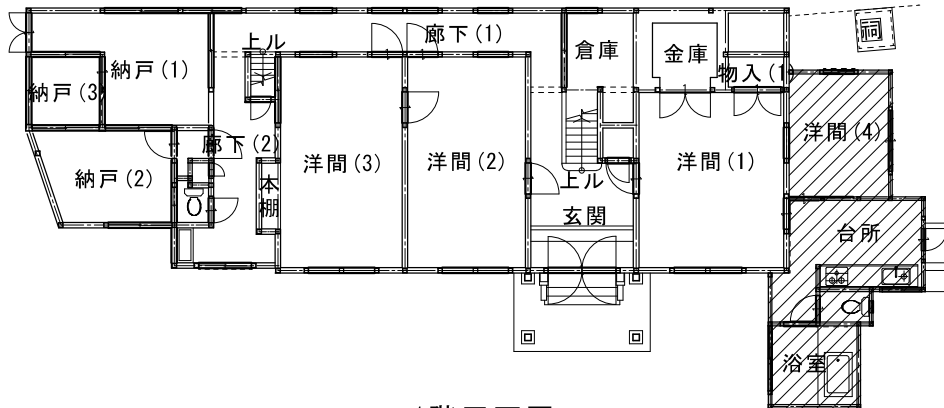
建物名	構造	床面積	登記年
洋館	木造2階建て	約264.13㎡	大正6年
附属家	木造平屋建て	約28.12㎡	昭和47年
和風建物	木造2階建て	約330.05㎡	明治33年
車庫①	鉄骨造平屋建て	約70.96㎡	—
車庫②	鉄骨造2階建て	約52.58㎡	—
車庫③	鉄骨造平屋建て	約87.74㎡	—
倉庫①	木造2階建て	約136.50㎡	—
倉庫②	木造平屋建て	約72.57㎡	—
倉庫③	木造平屋建て	約7.25㎡	—



洋館



2階平面図



1階平面図

洋館 ← ○ → 附属家

0 1 2 3 4 5(m)

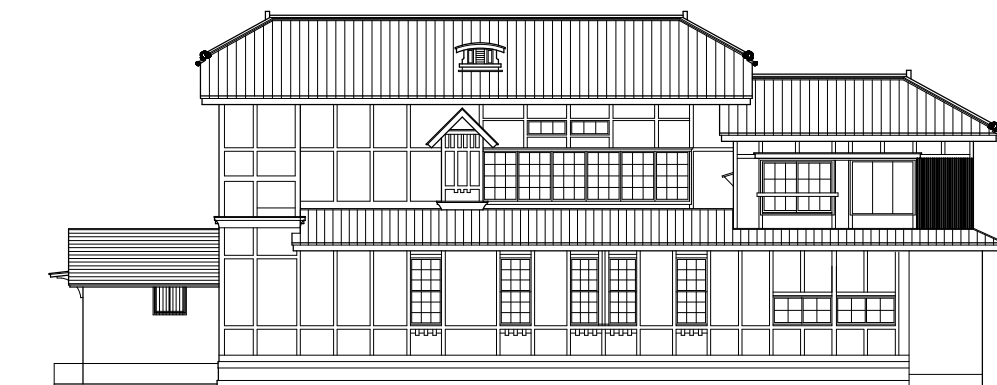


南立面図

洋館 ← ○ → 附属家



東立面図



北立面図

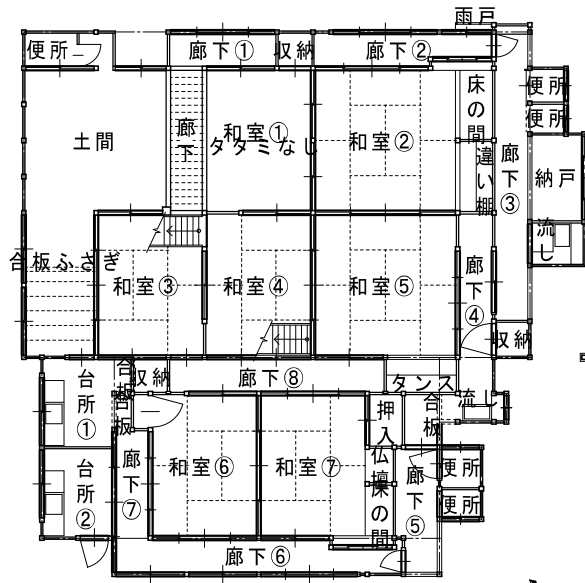
附属家 ← ○ → 洋館



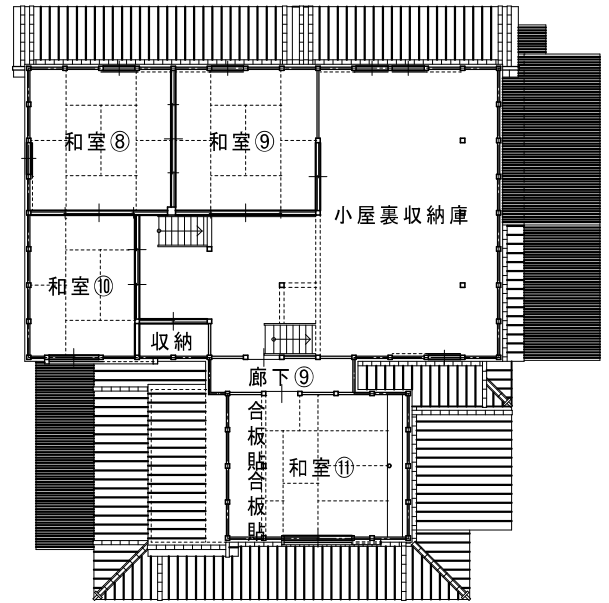
西立面図

0 1 2 3 4 5(m)

和 館



1階平面図

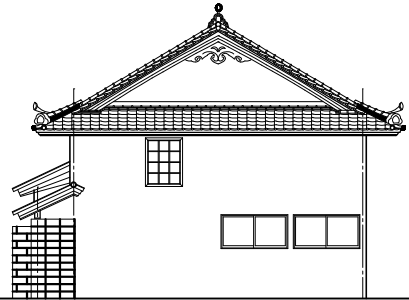


2階平面図

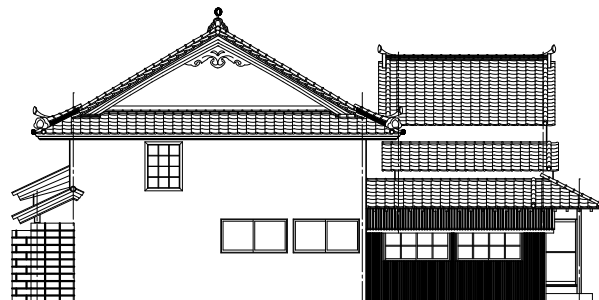
0 1 2 3 4 5 (m)



西立面図



北立面図



当初部分 ← → 増築部分

南立面図



東立面図

0 1 2 3 4 5 (m)